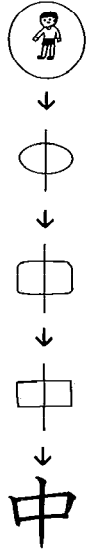


中

二年
 画数 4
 筆順 一 冂 口 中
 オン チユウ
 クン なか

成り立ち



ものまんなかにせんをひいて「ここが『まんなか』ですよ」ということで、『まんなか』といういみをあらわした字です。

「中」ということから、『なかほど』『あるはんいない』といういみにもつかれます。

また、字のかたちが「まんなかをせんがつらぬいたかたち」をしていて、『まんなかにあたったようにみえますので、『あたる』といういみにもつかわれます。

「命中」「中毒」「中風」などの「中」は『あたる』の意である。「毒にあたる」「風にあたる」という意味のことばである。」

使い方

▽「中川くん」はゆみがじょうずで、五ほんのうち、四ほんをまことに「命中」させ、一ぼんはまとの「まん中」をいぬきます。

▽「山中くん」は「集中力」がつよくて、ものごとに「熱中」したら、けっして「中断」しません。

熟語例

▽命中(的に『あてる』ことで、『的中』ともいいます。この「中」は『あたる』といういみです。)

▽集中力(『このころをものごとの中心点に集める精神力』のことをいいます。「このころを集中させる力」)

▽熱中(二つのことに熱っぽく集中してすること。熱心に集中する、といういみのことばです。)

▽中断(「途中で断ちきる」こと。「途中でやめてしまうこと」です。)

▽途中(「途」は『みち』。「みちのなかば」といういみですが、「しごとがまだおわらないうちに」といういみにつかれます。「中途」ともいいます。)

▽中継(「中継」ともいいます。ちよくせつわたすことがむずかしいとき、途中でうけてわたすこと。)

虫

二年
 画数 6
 筆順 一 口 中 虫
 オン チユウ
 クン むし

成り立ち



あたまのおおきなへび(『まむし』といいます)のかたちをあらわした字で、『まむし』↓『むし』のこをあらわした字です。

「こん虫」だけでなく『は虫るい』などのいみにもつかわれています。また、『なき虫』『よわ虫』などと、ひとをばかにしているのにもつかわれます。

使い方

▽わたしは、てんとう虫や、すず虫はすきですが、へびや、かえるはきらいです。

▽おとこのこは、虫をつかまえてあそぶのがすきなようです。おんなのこは、きもちわるがったり、かわいそうだとおもったりすることが、おおいようです。

熟語例

▽益虫(にんげんにとつて、やくにたつ虫。害虫をたべたり、はなのじゆふんをたすけたりする虫のこと。)

▽害虫(にんげんに害をあたえる虫。にんげんがいかに、にんげんにとつてたいせつな、かちく・のうさくもつなどにひ害をあたえる虫も害虫のなかま。たとえば、あぶらむし・うんかなどが、そのなかまです。)

▽回虫(にんげんや、かちくのちようにきせいして、えいようをすいとつていきる害虫。たまごがやさしいについで成虫になって、えいようをすいます。)

▽成虫(おとなになった虫)

▽幼虫(こどもの虫)